

京都グレインシステム株式会社

2024 年度 環境経営レポート

(対象期間： 2023 年11月1日～ 2024 年10月31日)



作成日： 2024年11月1日
更新日： 2025年4月1日



— 目 次 —

項 目	ページ
ご挨拶・環境経営方針	1
組織の概要	2
環境経営組織図	3
責任及び権限一覧	4
環境経営目標及びその実績	5
環境経営計画の取組結果とその評価・環境活動	6
環境関連法規等の遵守状況の確認	7
代表者による全体の評価と見直し・指示	8

ご挨拶

京都グレインシステム株式会社は創業以来、経営理念「健康と感動を食生活へ」のもと、事業活動に取り組んできました。飲料事業から食品事業へ拡大し、“市場にないものが欲しい”というお客様の難しいニーズにも応えてきました。

□環境経営方針

環境経営方針

当社は、環境にやさしい食品製造業を目指し、行動指針のひとつである「もったいない」の精神を育てよう（歩留まり・不良加工・工程のムダ・省力化の改善）を基に、SDGsの推進・環境保全の推進・維持に取り組みます。
また、法令を守り環境の事を考えた商品の購入（グリーン購入）に努めます。

＜必ず取り組む行動＞

- 省エネルギー化
- エネルギー使用量管理、見える化
- 井水・排水量及び水質管理、再利用化
- 自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善
- 廃棄物の削減、リサイクル化
- 法令遵守とグリーン購入の推進

2018年11月1日制定

2021年11月1日改定

京都グレインシステム株式会社
代表取締役 田宮 尚一

□組織の概要

会社概要

当社の概要は次の通りである。

社 名 京都グレインシステム株式会社

資本金 5,000 万円

従業員数 129 名（2024年11月現在）

所在地

本 社 〒600-8233

京都市下京区油小路通木津屋橋下ル北不動堂町480番地

資生堂京都ビル

TEL：075-353-8833 FAX：075-353-8837

奈良工場 〒632-0111

奈良県奈良市小倉町1224

TEL：0743-84-0396 FAX：0743-84-0397

石川工場/北陸フードデザイン工房 〒920-0020

石川県河北郡津幡町字湖東311-2

TEL：076-289-7794 FAX：076-289-7796

長浜工場 〒529-0304

滋賀県長浜市小谷丁野町赤谷2373

TEL：0749-60-0000 FAX：0749-60-0001

旭川工場/旭川フードデザイン研究所 〒078-1273

北海道旭川市東旭川町米原517-3

TEL:0166-76-3000 FAX:0166-76-3001

事業内容

農産物の製造加工及び受託加工

- ・飲料原料事業（玄米茶、麦茶、穀物茶 他）
- ・食品原料事業（発芽玄米、きな粉、雑穀パフ 他）
- ・健康食品原料及び生薬原料の刻み加工事業（原料加工）
- ・海外輸出入事業（中国茶 他）

対象範囲 本社・奈良工場・長浜工場

対象活動 全活動

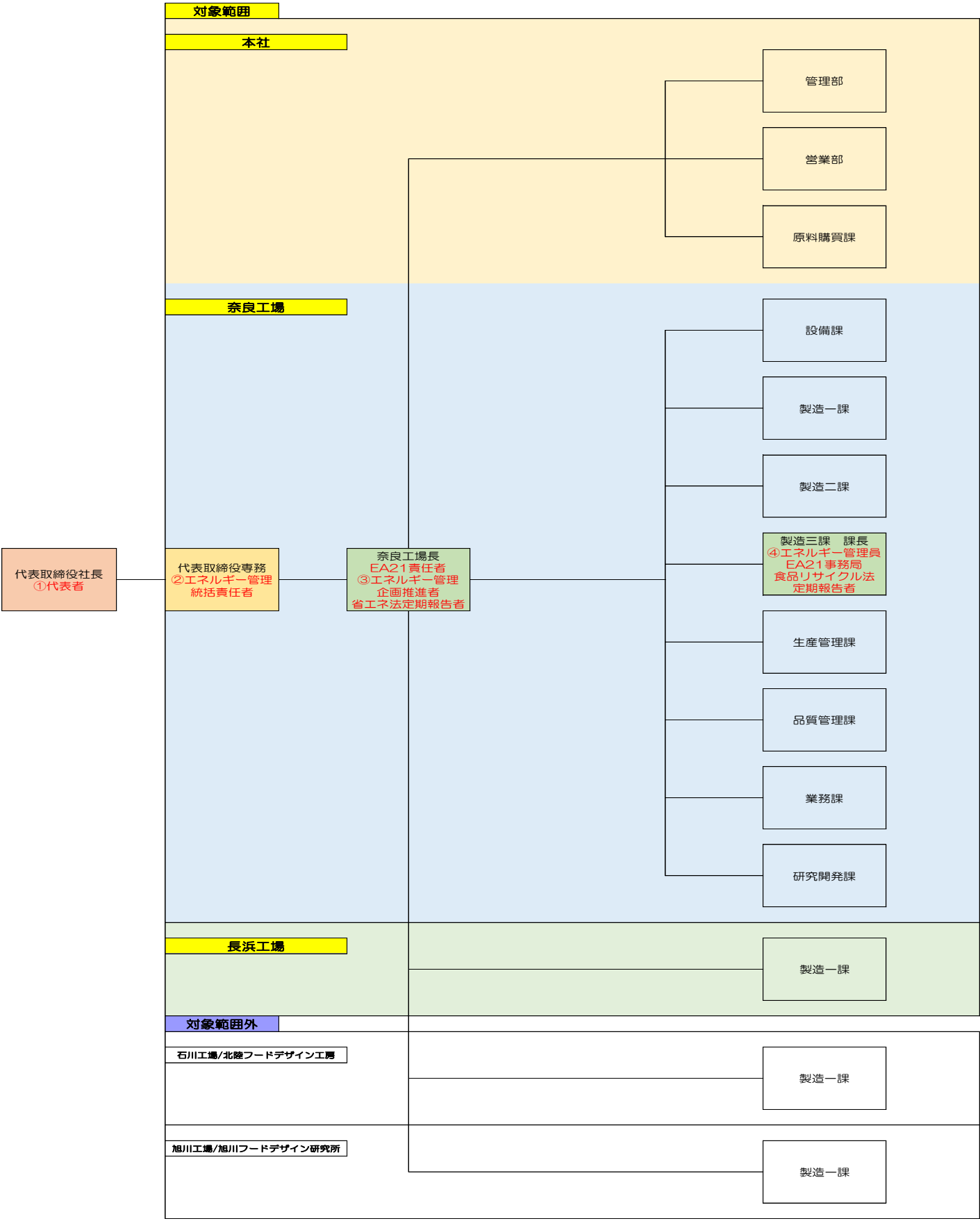
対象範囲外 石川工場/北陸フードデザイン工房、旭川工場/旭川フードデザイン研究所は、
来期中に負荷を把握し、来期からの認証を目指します。



	本社	奈良工場	石川工場/ 北陸フードデザイン 工房	長浜工場	旭川工場/ 旭川フードデザイン 研究所
従業員	11人	87人	4人	19人	4人
面積 敷地・床	71㎡ (床)	8089㎡ (敷地)	600㎡ (敷地)	5173㎡ (敷地)	2260㎡ (敷地)
売上比率	5.10%	77.46%	0.03%	16.82%	0.58%
	対象範囲		来期中に負荷を把握し、 来期からの認証を 目指します	対象範囲	来期中に負荷を把握し、 来期からの認証を 目指します

□環境経営組織図

更新日 2024年11月1日



注：本組織図は2024年11月時点の組織図となります。

責任及び権限一覧表

様式番号	文 書	①代表者 (EA21・省エネ法)	②エネルギー管理統括責任者 (省エネ法)	③EA21責任者 /エネルギー管理企画推進者 (省エネ法)	④EA21事務局 /エネルギー管理員 (省エネ法)	⑤部門長 ⑥省エネチーム
(1-1)	認証・登録の適用範囲					
(2-1)	課題とチャート整理書	実施	—	作成・報告	作成・報告	周知・実施
3-1	環境経営方針	実施	承認・報告	作成・報告	周知	周知・実施
(4-1)	環境負荷データ集計表	—	—	作成	作成・報告	—
(4-2)	環境への負荷の自己チェック表	—	—	作成	作成・報告	—
(4-3)	環境への取組の自己チェック表	—	—	作成	作成・報告	—
5-1	環境関連法規等一覧表兼遵守評価表	(13-2)	—	承認・作成・報告	作成・報告	—
6-1	環境経営目標一覧表	承認	承認	承認・作成・報告	作成・報告	周知・実施
6-2	環境経営計画/実績評価表	承認 (13-1)	承認	承認・作成・報告	作成・報告	周知・実施
7-1	実施体制図 役割・権限・責任表	承認・実施	作成・承認・報告	承認・作成・報告	作成・報告	周知・実施
(8-1)	教育訓練計画と記録	承認	承認	承認・確認	—	作成
(9-1)	環境コミュニケーション記録	(13-1)	—	承認・確認	作成・報告	作成
10-1	運用手順書	—	—	承認・確認	作成・報告	周知・実施
(11-1)	緊急事態準備対応手順	—	—	作成・確認	作成・報告	周知・実施
(11-2)	緊急事態訓練記録	承認	—	確認・報告	作成・報告	作成 (防火管理責任者)
(12-1)	環境関連文書・記録一覧表	承認	—	承認・作成・確認・報告	作成・報告	周知
(13-1)	問題の是正・予防処置報告書	承認	—	承認・作成・確認・報告	作成・報告	周知
(13-2)	環境関連法規等一覧表兼遵守評価表	承認	—	承認・作成・確認・報告	作成・報告	周知
14-1	代表者による全体評価と見直し記録	実施	—	承認・作成・確認・報告	作成・報告	周知
—	環境活動レポート	承認	—	作成・確認・報告	作成・報告	周知
省エネ法	定期報告書	承認	作成・確認・報告	作成・報告	作成・報告	周知
省エネ法	エネルギーを消費する設備の増設・改造又は撤去に関する事	承認	確認・報告	確認・報告	確認・報告	確認・報告
省エネ法	エネルギーの使用の合理化に関する設備の維持及び新設、改造又は撤去に関する事	承認	確認・報告	確認・報告	確認・報告	確認・報告
省エネ法	中長期計画	承認	作成・確認・報告	作成・報告	作成・報告	周知・実施

口環境経営目標及びその実績

環境経営目標一覧表

目標策定日：2023年11月1日

環境目標			基準年度(2023年度)	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
			実績売上高千円 (税込)					
			取組サイト	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減 (kWh/売上百万円)		対基準年度削減%	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0
		奈良工場	407	403	399	395	391	387
		長浜工場	70	69	69	68	67	67
	電気二酸化炭素合計 (kg-CO2/売上百万円)		0	0	0	0	0	0
	燃料(LPG)使用量の削減 (kg/売上百万円)		対基準年度削減%	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0
		奈良工場	241	238	236	234	231	229
	燃料(LPG)二酸化炭素合計 (kg-CO2/売上百万円)		723	715	708	701	694	687
	奈良工場二酸化炭素排出量合計 kg-CO2/売上百万円		723	715	708	701	694	687
	奈良工場二酸化炭素排出量合計 kg-CO2		3221520	3189305	3157090	3124875	3092659	3060444
	燃料(LNG)使用量の削減 (kg/売上百万円)		対基準年度削減%	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0
		長浜工場	85	84	83	82	82	81
	燃料(LNG)二酸化炭素合計 (kg-CO2/売上百万円)		256	253	251	248	246	243
	長浜工場二酸化炭素排出量合計 kg-CO2/売上百万円		256	253	251	248	246	243
	長浜工場二酸化炭素排出量合計 kg-CO2		649050	642560	636069	629579	623088	616598
	京都本社 ガソリン使用量 (ℓ/売上百万円)		対基準年度削減% (2022年11月～2023年10月)	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0
		ガソリン (2.32kg-CO2/L)	2.97	2.94	2.91	2.88	2.85	2.82
		軽油 (2.58kg-CO2/L)	0.28	0.28	0.27	0.27	0.27	0.27
	京都本社二酸化炭素排出量合計 kg-CO2/売上百万円		7.37	7.30	7.22	7.15	7.08	7.00
	京都本社二酸化炭素排出量合計 kg-CO2		33864.19	33,525.55	33,186.91	32,848.26	32,509.62	32,170.98
廃棄物排出量の削減	産業廃棄物の削減 (kg/売上百万円)		対基準年度削減%	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0
		奈良工場	32.3	32.0	31.7	31.4	31.0	30.7
		長浜工場	0.5	0.50	0.49	0.49	0.48	0.48
	食品廃棄物再生利用実施率の 向上維持		基準年度(2023年度)%	95.3%	95.3%	95.3%	95.3%	95.3%
		奈良工場	95.3%	基準以上維持	基準以上維持	基準以上維持	基準以上維持	基準以上維持
水使用量の削減	地下水使用量の削減 (㎡/売上百万円)	奈良工場	基準年度削減%	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0
		使用量	3.56	3.52	3.49	3.45	3.42	3.38
	市水使用量の削減 (㎡/売上百万円)	長浜工場	基準年度削減%	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0
		使用量	0.2	0.20	0.20	0.19	0.19	0.19
グリーン購入の推進	環境負荷低減商品の使用	全社	使用商品のG商品使用率	基準年度 + 5 %				
	事務用品・車両・照明器具		70%	75%以上	75%以上	75%以上	75%以上	75%以上
製品及びサービスに係る環境 配慮	容器包装の適正化		過剰使用禁止	過剰使用禁止	過剰使用禁止	過剰使用禁止	過剰使用禁止	過剰使用禁止

※電力のCO2排出係数はミツウロコグリーンエネルギー株式会社のメニューFの為、「FO」となる。

※本社は4事業者と共用のため、電気、水、廃棄物量は目標設定しない。

※奈良工場の車両燃料、事業系一般廃棄物は僅少のため、目標設定はしない。

※化学物質を使用していない。

※2024年度から2023年度を基準年度へ変更。

□環境経営計画の取組結果とその評価・環境活動

様式6-2 環境経営計画／実績表 期間 2024年度(2023年11月～2024年10月)

環 境 目 標				環 境 活 動		月 別 の 計 画 ／ 実 績		5. ほぼ 100% 取り組みができた 4. 75% 程度の取り組みができた 3. 50% 程度の取り組みができた 2. ほとんど取り組みなかった 1. 全くとり組めなかった	
						評価基準／集計	数値評価		
奈良工場・長浜工場 電力使用量の削減 (kWh/売上百万円) CO2排出係数「0」 基準年比 1 %減	不要照明の消灯の継続		4		全体として8%の超過となった。地球温暖化の影響により、夏場の飲料向け商材の需要が高まっており、製造数量の増加に伴い、電気使用量が増加している事が原因と考えられる。長浜工場の本格稼働が始まり、製造量が増加傾向である。増設した電気式脱臭装置の運用により電気使用量が増加しており、電気使用量増加の一因と考える。奈良工場では、太陽光発電設備が設置し、来期以降の電力量削減に期待ができる。				
	空調の温度管理の継続 暖房時： 22℃ 冷房時： 26℃ OA機器等の省エネ設定および		4						
	不使用時の電源オフ		4						
	電気使用機器の省エネの検討		4						
	電力使用量の削減 計画 kg/売上百万円		478.00						
	電力使用量の削減 実績 kg/売上百万円		514.55	× 108%					
奈良工場 燃料(LPG)使用量の削減 (kg/売上百万円) 基準年比 1 %減	燃焼設備 空気比の調査と適正化		4		目標未達となる。上記と同様に、夏場の飲料向け商材の需要が高まっており、製造数量の増加に伴い、化石燃料の使用量が増加している事が原因と考えられる。引き続き、電化に向けた情報収集を実施していく。				
	機器の暖機及び運転時間の短縮		4						
	—								
	—								
	燃料(LPG)使用量の削減 計画 kg/売上百万円		238.00						
	燃料(LPG)使用量の削減 実績 kg/売上百万円		243.76	× 102%					
奈良工場CO2合計 kg-CO2/売上百万円	奈良工場CO2合計 計画 kg-CO2/売上百万円		716.00						
	奈良工場CO2合計 実績 kg-CO2/売上百万円		731.27	× 102%					
奈良工場kg-CO2合計	奈良工場CO2総量 計画 kg-CO2		3189304.80						
	奈良工場CO2総量 実績 kg-CO2		3388855.71	× 106%					
長浜工場 燃料(LNG)使用量の削減 (㎡/売上百万円) 基準年比 1 %減	燃焼設備 空気比の調査と適正化		4		長浜工場においては、本格稼働が始まり、基準年度より大幅に製造数量及び化石燃料使用量が増えている。随時、現状に適した基準年度の再設定が必要と考える。				
	機器の暖機及び運転時間の短縮		4						
	—								
	—								
	燃料(LPG)使用量の削減 計画 kg/売上百万円		58.60						
	燃料(LPG)使用量の削減 実績 kg/売上百万円		60.81	× 104%					
長浜工場CO2合計 kg-CO2/売上百万円	長浜工場CO2合計 計画 kg-CO2/売上百万円		103.70						
	長浜工場CO2合計 実績 kg-CO2/売上百万円		131.34	× 127%					
長浜工場kg-CO2合計	長浜工場CO2総量 計画 kg-CO2		462642.80						
	長浜工場CO2総量 実績 kg-CO2		625428.00	× 135%					
京都本社 ガソリン使用量 (ℓ/売上百万円)				公共交通機関の利用		4		本社においては、すべての項目において目標を達成できた。例年より、移動手段として公共交通機関の利用を推進している。その結果が反映されたものと考ええる。	
ガソリン (ℓ)	排出係数	2.32	本社ガソリン	計画		2.95			
				実績		2.49	○ 84%		
軽油 (ℓ)	2.58		本社軽油	計画		0.32			
				実績		0.27	○ 86%		
京都本社CO2合計 kg-CO2/売上百万円	京都本社CO2合計 計画 kg-CO2/売上百万円		7.30						
	京都本社CO2合計 実績 kg-CO2/売上百万円		6.90	○ 95%					
京都本社kg-CO2合計	京都本社kg-CO2合計 計画 kg-CO2		2793.75						
	京都本社kg-CO2合計 実績 kg-CO2		2568.23	○ 92%					
全社kg-CO2総量	全社kg-CO2総量 計画 kg-CO2		3654711.35						
	全社kg-CO2総量 実績 kg-CO2		4016851.94	× 110%					
廃棄物排出量の削減	奈良工場・長浜工場 産業廃棄物の削減 (kg /売上百万円) 基準年比 1 %減	再利用化の推進		4		製造数量の増加に伴い、産業廃棄物が増加している。また、飼料用に出荷していた食品残渣の引き取り先が減少してきており、一部産業廃棄物として処理した。引き続き、持続可能な廃棄物の再利用に関して可能性を模索していく。			
		—							
		—							
		計画		33					
	食品廃棄物再生利用実施率の向上維持 基準年実施率以上維持	食品廃棄物再生利用実施率向上		5		上記の通り、食品残渣の引き取り先が減少している。引き続き、新たな引き取り先を調査していく。また、バイオマス化などの新たな利用方法を模索している。			
		—							
計画		95%							
水削減	奈良工場 水使用量の削減 (㎡/売上百万円) 基準年比 1 %減	節水		5		水資源の使用量は引き続き減少傾向にある。引き続き効率的に水資源を使用していく。			
		計画		5.45					
	長浜工場 市水使用量の削減 (㎡/売上百万円) 基準年比 1 %減	節水		4		長浜工場においては製造数量の増加に伴い、使用量も増加傾向にある。ただ、全体量に対する使用量は微々たる量である。			
		計画		0.08					
環境活動の推進				グリーン購入の推進		継続中	—	事務用品は、概ね実施は出来ている。機械装置に関しても、使用電力やエネルギー量を考慮し、導入が出来る。	
				容器包装の適正化		過剰使用禁止	—		継続的に活動を推進する。
備考				・食品廃棄物の発生量:494.9 t ・再生利用の実施量:438.8 t ・処分の実施量:56.1 t					

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法令についての違反、訴訟等はありません。また、関係当局からの違反等の指摘は過去3年間ありません。
食品リサイクル法の事業者ごとの基準実施率は達成しています。

法律名	適用設備及び活動	記録その他	評価
大気汚染防止法	乾燥機	ばい煙発生施設設置届出書	○
		ばい煙測定報告書	○
水質汚濁防止法	公共用水域への排水口	特定施設設置届出書	○
		水質分析	
		50m ³ 以下/日	
騒音規制法	コンプレッサー・送風機・穀物用製粉機	騒音規制法特定施設届出届	○
	敷地境界騒音レベル	騒音測定 記録	○
振動規制法	コンプレッサ	コンプレッサ仕様一覧表	○
	敷地境界線上 振動レベル	振動測定 記録	○
自動車No x・PM法	ダンプ（普通）	自動車検査証	○
浄化槽法	合併浄化槽	届出書	○
		浄化槽保守点検記録表	
廃棄物処理法	産業廃棄物	委託契約書	○
		許可証	
		マニフェスト	
		報告書	
食品リサイクル法	奈良工場・長浜工場	定期報告書の提出	○
容器包装リサイクル法	特定容器利用事業者	指定法人引き渡し	○
省エネ法	灯油、ガソリン、軽油	—	○
	その他エネルギー	—	
	使用設備	—	
	全社	定期報告書の提出	
フロン排出抑制法	7.5kW以上50kW未満のエアコン	定期点検表	○
消防法（危険物）	少量危険物貯蔵設備 9800屋外タンク	少量危険物貯蔵取扱届出書	○
		甲種防火管理講習修了証	
水銀汚染防止法	蛍光灯・水銀灯の廃棄時	マニフェスト	○
悪臭防止法	焙煎設備	臭気強度	○
	敷地境界線レベル		
	工場・機械排出口		

□その他活動

【太陽光発電設備の工事完了】



奈良工場、新倉庫A棟の屋上にて太陽光パネルを設置しました。
自家発電用設備として導入します。

2024年11月から発電を開始する予定となります。工場全体の総使用量の6分の1を賄う発電能力があります。

来期以降の購入電気使用量削減に大いに期待しています。

年間を通して効果を検証し、結果次第では、他建屋への増設なども検討しています。

その他の取り組み内容として、バイオマスボイラーの設置、試運転も実施しています。

奈良工場で発生する残渣を燃料にできないか検証中です。

現状、残渣の種類によっては点火しないなどの問題が発生しており、燃料として利用可能な残渣を調査しています。

引き続き、バイオマスエネルギーの可能性に挑戦していきます。

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日 2025年1月17日

環境経営方針の見直し有無	有 ※1
環境経営目標・計画の見直し有無	有 ※2
実施体制、その他見直しの有無	有 ※3

※1 「継続的改善」の文言を追加

※2 基準年度を2024年度へ変更する

※3 代表取締役の変更。石川工場、旭川工場の認証

<総括>

奈良工場にて前年度から計画していた太陽光発電設備の設置が完了した事で、年間の電気使用量の6分の1を削減できる予定と認識している。2024年11月から発電開始、来年度の電力使用量の削減結果について、大いに期待している。

最近ではペロブスカイト太陽電池など、新しい技術開発の進展があり、KGS全体で、日々の技術発展には興味を持って欲しい。

わが社は、化石燃料によるエネルギー源に依存している為、世界的な潮流として化石燃料から代替燃料へ短期的に置換する方向で考えている。恐らく、今後はプロパンガスから水素ガスへ変わっていくだろうと思っている。既存のエネルギー源も引き続き確保しながら、新たな世界的な動向を注視してタイミングを見計らって移行していければいいと思う。

化石燃料のエネルギー源からの脱却案として、機械設備の電化も実現させたい。具体的には、超過熱水蒸気(700℃の温度帯での焙煎が可能)などの代替設備の可能性などを模索し検討を進めて行きたい。わが社は、新しい技術を積極的に導入してきた実績があり、多様な技術を習得しながら、製造規模を拡大して来たので、これからも継続して従業員には、他社ではやっていないチャレンジする向上心を持つことを期待している。

化石燃料の使用量削減に関しては、バイオマス燃料の可能性にもチャレンジしてくれていると聞いている。
前年度からバイオマスボイラーを設置し、ウッドチップを主燃料とし、自社で発生する残渣を組み合わせたバイオマス燃料として使用できるかの検討も視野に入れて検証を進めて欲しい。バイオマスボイラーに関しては、化石燃料の使用量削減への取り組みであり、循環型社会への貢献にも繋がってくる。また、バイオマスボイラーにて発生する炭化物は肥料へ転換し、それを再び農協や農家へ戻すといった、循環型社会へのモデルケースとなる様に期待している。

地球温暖化の影響は年々、肌を感じており、特に春や秋の期間が短くなっていると感じる。その結果として、農作物の成長過程に影響を及ぼし、農作物の生育が思うようにいかず、益々、減産していく傾向になると危惧している。また、消費者の消費動向も変化しており、食品業界を取り巻く環境は、これから予測不可能な状態になる事は明らかで、従業員には、既存の技術に囚われず、新たな可能性にチャレンジして欲しいと思っている。